

令和3年度 学校の自己評価の結果と改善策

昭和町立押原小学校

教職員アンケート結果をもとにしながら、保護者アンケート、児童アンケートの結果もふまえて、学校の自己評価を行った。

教職員アンケートについては、評価は、7月（前期）、12月（後期）の2回行っている。保護者アンケートと児童アンケートは年1回（12月）に行っている。どのアンケートも共に、各項目における「1 そう思う」、「2 どちらかというと思う」、「3 どちらかというと思わない」、「4 そう思わない」の各選択肢のポイント（%）を算出している。

1 全体評価

・54の評価項目（ここでは後期の教職員アンケートによる）のうち、すべてにおいて、肯定的評価〔1（そう思う）と2（どちらかというと思う）〕が80%を超えている。

・最頻値（1から4のうちで、最も回答の多い値）については、全54項目中、1が47項目であった。

・否定的評価〔3（どちらかというと思わない）と4（そう思わない）〕をポイントが高かったもの（10%を超えたもの）は、児童アンケートの「⑬あなたは、家庭訪問や個別懇談が終わったあとは、お家の人と学校のこと（勉強や友達のこと）について話をしている」と教職員アンケート（6）多様な学習と質の高い授業の実践「①あなたは、iPad・パソコン・電子黒板等の電子機器を活用した授業を実践している」の2項目であった。

2 項目ごとの評価結果

（1）学校教育目標に関して・学校経営について

後期では、全ての項目で肯定的評価が100%となった。「そう思う」の評価のポイントが最も高かったのは、「②あなたは、学校の教育活動計画に基づき、実態に即した教育実践を行っている」であった。それぞれの学級・学年において、学校経営方針に基づいた教育活動を行うことができたといえる。また、それぞれの学年や学級において様々な課題がある中で、実態に応じた実践も行うことができている。

前期の課題であった「③あなたは、PDCA サイクルを生かした教育活動を行っている」については、後期はすべてが肯定的評価となった。教職員間で情報交換を行う時間を作り、改善を行ってきたことが良い結果につながったと考えられる。しかし、未だ「そう思う」より「どちらかというと思う」の数値が高い項目のひとつである。日々の業務に追われ、PDCA サイクルのC（チェック/評価にあたる部分を丁寧に行う時間的なゆとりが少ないことが要因として考えられる。学年間や異学年でより一層の情報交換に取り組んでいき、教職員一人一人が各自の目標を意識し、PDCA サイクルを活用した教育実践を行っていきたい。

今後は、1年間の中で実践してきたことの振り返りや次に繋げる手立てを記録として残し、次年度の引継ぎに役立てたい。

(2) 学習指導について (保護者、児童アンケートも含めて)

教職員アンケートでは、前期に比べると多くの項目においても「そう思う」のポイントが上がっており、前期の課題を生かすことができた。基礎・基本の定着はもちろんだが、校内研究会で提案授業を行い、各クラスにおいて活かすことのできる実践であったことも効果的だった。保護者アンケート、児童アンケートもおおむね肯定的な支持を得ている。

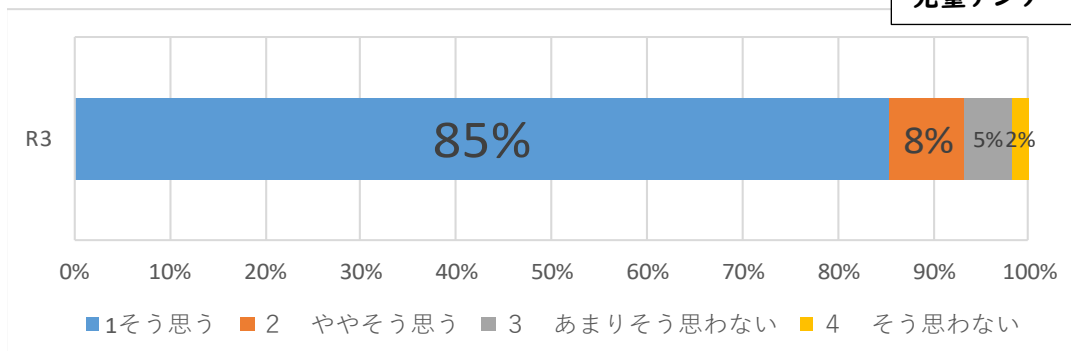
ただ、保護者アンケートの④を見ると、昨年と比べ、「そう思う」の回答率が5ポイント下がっている。教職員アンケートを見ると「そう思う」のポイントが前期に比べ後期は伸びている。保護者の思いに寄り添い、教職員は今一度反復学習やドリル学習を取り入れ基礎・基本の定着を図る授業を実践していきたい。

教職員アンケートの「(2)③あなたは、思考力や表現力などを高める授業に努めている」の項目が、前期に比べ後期が、「どちらかというと思う」への回答のポイントが上がっている。昨年に引き続き、校内研究会を通して取り組んでいる項目である。今回の結果を受け、さらに校内研究での成果や課題もふまえ、授業改善に努めていくことが重要である。

教育センターから出されたピックアップ問題等を活用しながら、改善を図りたい。

⑧ 先生たちは、おうちでの勉強(宿題や自学)を見てくれる。

児童アンケートより

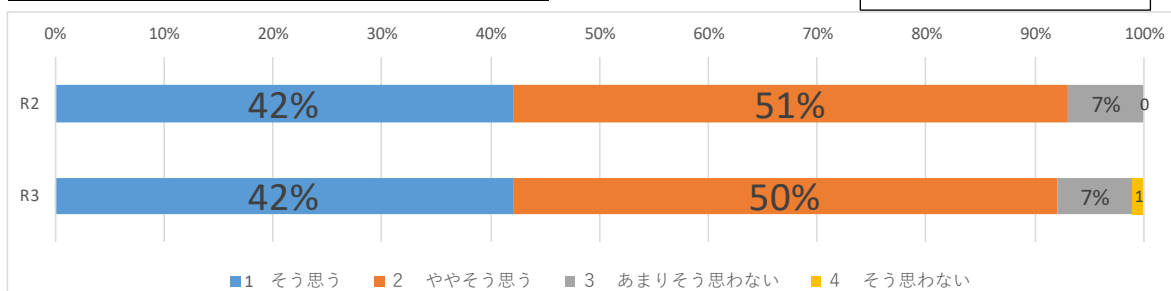


家庭学習については、児童アンケートの「⑧先生たちは、お家での勉強(宿題や自学)を見てくれる」の項目の「そう思う」は85%と肯定率は高い。工夫した自学ノートのコピーやその自学ノートのどこが良いかのコメントを見て学ぶことができるので、児童にとって具体的な自学の取組が明確になり、徐々に浸透してきた結果である。教職員アンケートでは、前期は教職員アンケートでも「そう思う」より「どちらかというと思う」の回答が多く、「あまりそう思わない」のと回答が10%であった。その後、上記に示したような取り組みの結果、後期では100%の肯定的評価となった。

一方、保護者アンケートの⑧の「1 そう思う」より「2 どちらかというと思う」の回答が多い唯一の項目であり、「3 どちらかというと思わない」が保護者アンケートの全体で最も高い。児童アンケートや教職員アンケートの結果との違いの大きな項目で

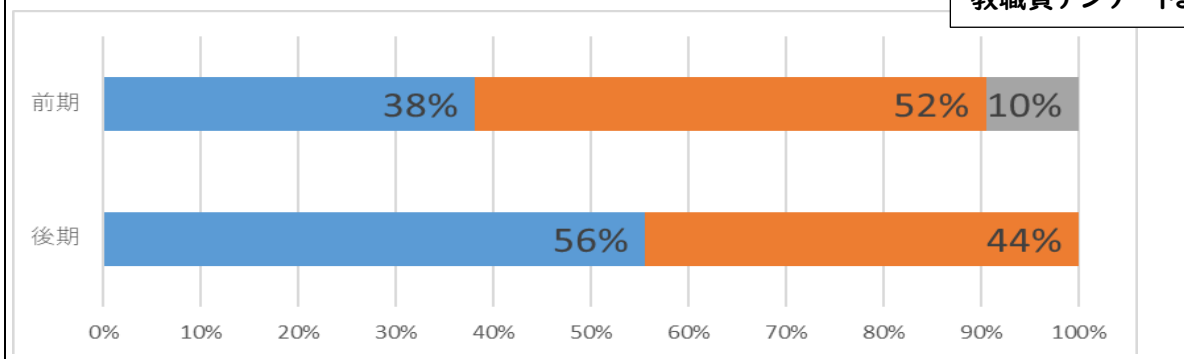
⑧ 学校は、家庭学習について家庭と連携を図っている。

保護者アンケートより



(2) ⑥ あなたは、家庭学習について家庭と連携を図っている。

教職員アンケートより



ある。昨年度も課題として挙げられており、「たより」等を通じて家庭に呼び掛け、PTA 会費で本年度も自学ノートを 1 人 1 冊配付したが、アンケート結果からは家庭学習が児童に浸透しているまでにはいかなかったと捉える。授業と家庭学習を有機的に結び付け、児童自らが課題意識と学習意欲をもって家庭学習に取り組めるような授業改善を重ねていきたい。また、コロナ禍のため、学校に来ていただく機会が減り、「自学」の実際の取り組みの様子を保護者が提示資料などを通じて見る機会が少ないことも要因の一つと考えられるので、別の方法で実践例を紹介することを模索していきたい。

(3) 安全指導について（保護者、児童アンケートも含めて）

この項においても 3 つのアンケート共に肯定的評価となっている。特に「そう思う」の回答が高かったのは、「新型コロナウイルス感染症への対応」だった。本年度も分散登校や、日々の感染症対策等、その時の感染症の状況に応じた対策を日々の手指消毒や換気等だけでなく、児童会活動や委員会活動と連携した取組を実施した点が評価されたといえる。

その一方で、保護者アンケート「⑩ 学校は、災害や犯罪発生を想定した対応に取り組んでいる（避難訓練・引き渡し訓練・防犯訓練等）」においては、昨年度に比べ、「そう思う」の回答が 10% 下がっている。新型コロナウイルス感染症拡大防止措置のため、引き渡し訓練が実施できなかったことが要因であると思われる。同内容の教職員アンケートは、前期に比べ後期は、「そう思う」のポイントが上がっている。校内における避難訓練は地震想定、火災想定だけでなく、垂直避難（動画視聴）や予告なしの避難訓練が実施できた結果であると考えられる。児童アンケートにおいてもこの項目は肯定率が高い。1 月に行われた予告な

しの避難訓練において、振り返りの時間を十分に確保し、児童自身が自分の身を守る方法について実践を通す中で学ぶことができた。今後も継続したい。これらの取組を保護者に向け、広く周知することが今後必要である。

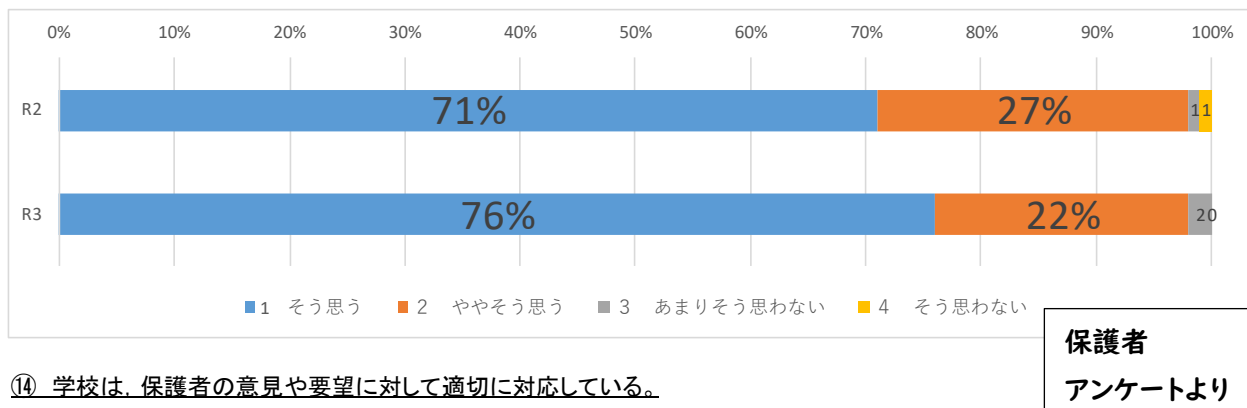
登下校の安全については教職員アンケートの(3)「①あなたは、児童の安全な登下校のために安全指導を行っている」においては、「そう思う」の回答が9%低下した。また、保護者アンケート「⑨学校は、児童の安全な登下校のために安全指導を行っている」においても昨年度に比べ、「そう思う」の回答が6%下がっている。本年度6月には千葉県で痛ましい事故があり、保護者や地域からの関心も高い項目の一つである。本校においても、日頃の学級指導や集団下校時での指導に取り組んだり課題があった登校班においては、朝現地に赴き登校指導等、適宜取り組んだりしている。また、「押杜っ子を守る会」の会員様からの情報提供をもとに登校班への指導も行っているが、今回の結果を受け止め、今後も家庭や地域とも連携して取り組みたい。

(4) 保護者や地域の人々と参画・協働・熟議・互惠を基調とした開かれた信頼される学校の創造

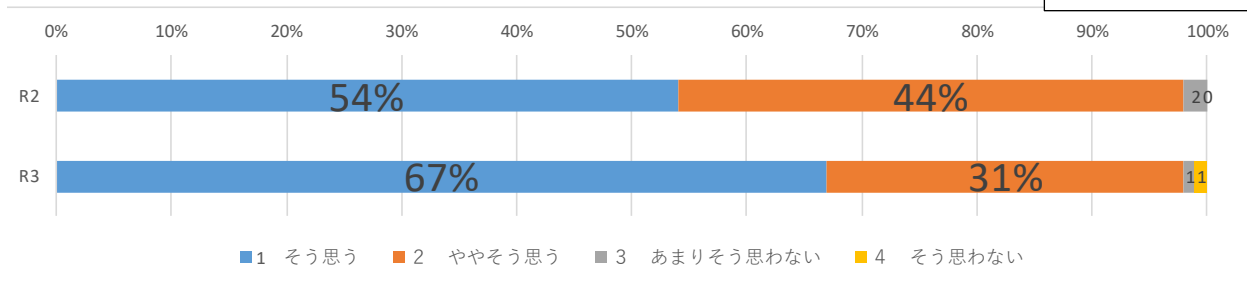
この項は、保護者アンケートと教職員アンケートで大きく伸びている。

保護者アンケートにおいても、昨年度と比較して、⑬、⑭の項目では「そう思う」の回答が大きく伸びている。コロナ禍のため多くの制限があった中だったが、運動会や道徳の授業参観等を実施することができた。そうした中でも学年・学校だより・ホームページは学校の考えや動きを知らせるためにも効果的であったといえる。運動会においては「学校が最善策

⑬ 家庭訪問、個別懇談、地区別授業参観などは、教職員と保護者が相互に理解を深めたり課題を共有したりする機会になっている。



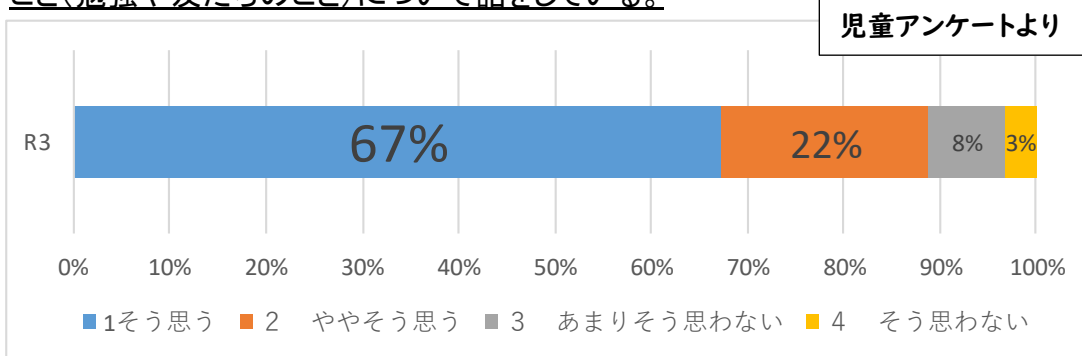
⑭ 学校は、保護者の意見や要望に対して適切に対応している。



保護者
アンケートより

を工夫してくれた」「実施できたことがありがたい」といった声を後日聞くことができた。今後もこのような結果につながるような取り組みを継続したい。

⑬ あなたは、家庭ほうもんやこべつこんだんがおわったあとは、お家の人と学校のこと(勉強や友だちのこと)について話をしている。



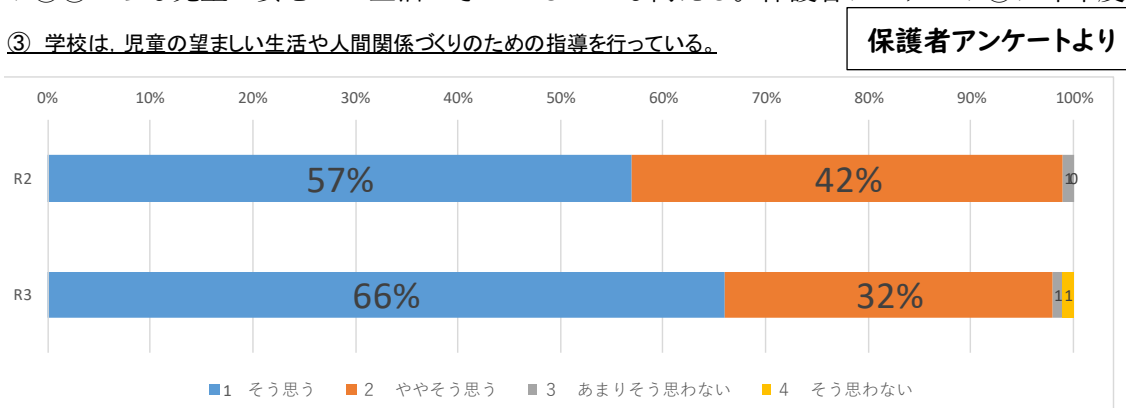
一方、児童アンケートでは⑬の項目の「そう思う」の回答率は他の項目に比べると低く、「3（どちらかというと思わない）」と4（「そう思わない）」の回答が今回のアンケート全体を通じて最も高かった。今後は、家庭訪問や個別懇談後の家庭への働きかけ及び学校生活の話題提供、児童の学校生活の様子等、児童が学校生活を通し、自分自身についてより一層意識を高める手立てを模索していきたい。

コミュニティ・スクールの取組に関しては、保護者アンケート⑮では、「どちらかというと思わない」の回答率が昨年度に比べ3%上がった。ここ2年間はコロナ禍のため制限があり、思うように活動できなかったことが要因と考えられる。その中で本年度も、「CS感謝の集い」は日頃お世話になっている地域の皆様に感謝の手紙を送ったり、クラブ活動では、地域からの支援を得ている活動についても感染症対策ができる内容に絞り込んだりした。その取組に対して、地域から温かい声や手紙のお返事を昨年度以上にいただいた。今後もコロナ禍で制限のある生活が続くことが予想されるが、このように工夫することでできることを増やしていきたい。また、「学校運営協議会」の機能と「地域学校協働活動」の機能の連動と棲み分けをしたうえでそれぞれの個々の充実と連動を図りたい。

(5) 生徒指導について（保護者、児童アンケートも含めて）

この項において3つのアンケートともに肯定的評価90%以上となった。児童アンケート①②からも児童が安心して生活できていることも伺える。保護者アンケート③は昨年度

③ 学校は、児童の望ましい生活や人間関係づくりのための指導を行っている。

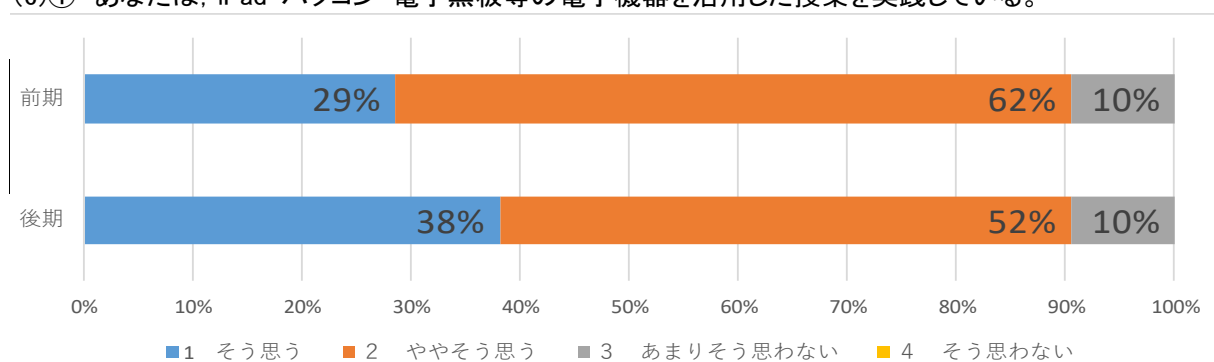


と比較し大きく伸びている。毎朝の玄関前や教室前での健康チェックを通し、子ども達の声色や表情から普段の様子と違うかどうかなど、コミュニケーションを取りながら細やかに把握することをはじめ、いつもと違うことがあった場合は、素早く対応をしてきた成果といえる。また、毎週金曜日には職員全体で児童理解の機会を設け共通理解を図ったり、必要に応じてケース会議などを開催したりしていることも児童や保護者の肯定的評価につながっていると思われる。今後も、継続していきたい。

(6) 多様な学習と質の高い授業の実践

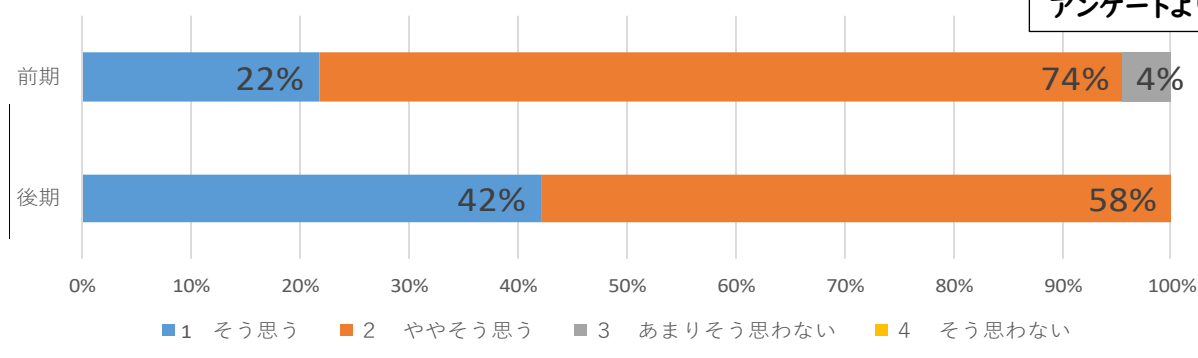
教職員アンケートでこの項目は前期最も低かった。

(6)① あなたは、iPad・パソコン・電子黒板等の電子機器を活用した授業を実践している。



(6)② あなたは、個に対応したきめ細かな指導を実践している。

教職員
アンケートより



教職員は前期の結果を受け止め、特に一人1台端末の活用については、手探りの中で実践を重ね、授業改善等を行ってきた。各々が意識を高め、真摯に向かい合うことで活用の幅がさらに広がった。11月から町からGIGAスクールサポーターが週1回程度来校し、助言をいただきながらICT機器を有効活用できる努力を重ねてきた。そのため後期については、「そう思う」の回答が増えた。しかし、最頻値が「どちらかというと思う」であり、①は、否定的評価〔3（どちらかというと思わない）と4（そう思わない）〕をポイントが高かったもの（10%を超えたもの）の回答の一つである。教職員が謙虚な姿勢でアンケートに回答した部分も考えられるが、今後もPC等を授業で活用しつつ、児童自身も積極的にPCを扱う場面も増やしていければと考える。まずは、日々の実践を通じて、学年間及

異学年間で活用方法を情報主任・副主任と連携し、情報担当者会議を通じて共有していきたい。

学習面、生活面で個別の対応が必要な児童の増加が今後も予想される。本年度の全教職員（コロナ対応増員含む）による支援体制は、多くの場面で教育効果を上げている。この点については、保護者も、児童を理解し寄り添う教職員の対応について肯定的な捉えをしていることが、生徒指導、学習指導に関する保護者アンケートや児童アンケートの項目の結果からうかがえる。今後も、教職員の配置に向けた要求を継続していくとともに、校内の組織体制を十分活かした、効果的な実践を進めていきたい。

(7) めざす教師像

前期に比べ、全体として「そう思う」の回答率が上がった。教職員が、教育公務員としての自覚をもち、児童のために創意工夫をし、職務を遂行している結果であろう。保護者アンケートからも、各分野の項目において、教職員の姿勢への肯定的な評価が得られている。円滑な学校運営のため、教職員が協働し、安心安全で信頼される学校づくりに励んでいる様子を反映したものととらえられる。児童アンケートにおいても、各分野の項目において、教職員を信頼し、学校生活を安心して送っていることが読み取れる。今後も子どもたちの実態をもとに、日々の授業を大切に、本校が目指す子ども像に教職員が向かっていくことで、信頼される学校づくりに励みたい。

本年度は、全世帯の保護者と全児童を対象に学校評価アンケートを実施した。これも児童や保護者との望ましい人間関係を築くことに努めることの一環である。今後も、めざす教師像を教職員が共有しながら、努力を重ねていきたい。

(8) その他（学校の自己評価に向けた各種アンケートの改善等について）

児童アンケートについて、昨年度までは実施をしていなかった。今年度は、より広い範囲からの声を収集し、全体的、客観的な評価につながっていくよう、第2回学校運営協議会（11/16）での検討も通じて、全児童を対象に実施することとした。今後もこの方法を継続し、学校の自己評価に活かしていきたい。

今回の教職員アンケートと保護者アンケートの各項目については、昨年度、アンケート項目について相関性が十分ではない点があり、ある調査内容に関して、教職員、保護者それぞれの評価を比較することが難しい点も見いだされた。今年度は、2つのアンケートについて、項目の内容や全体の構成を再検討し、さらに、児童を対象としたアンケートを、2つのアンケートと相関性のある項目構成によって実施した。

学校の自己評価に資する情報がさらに適切に得られるよう、より焦点化した分析ができるよう教職員、保護者、児童の三者のアンケートの内容や構成についてさらに改善していくことを、来年度への検討課題としたい。